

ミニきねでぺったん

鳥取・郷 4年ぶり餅つき体験
鳥中



ミニきねで餅つきを体験する子ども

鳥取市覚寺の中ノ郷地区

公民館(矢部敏昭館長)で、師走を前に一足早い餅つき体験会があった。同公民館の子どもと大人のふれあい事業の一環。子どもたちはミニきねで餅をつき、参加者にはつきたてをきな粉餅にして振る舞われた。

円護寺高年クラブ「百寿会」が、臼などの道具3組を準備。もち米60キを公民館が用意し、子ども会指導者連絡協議会など4団体が

協力した。

あいにく雨天のため、中ノ郷小体育館入り口に臼を3基並べて実施。鳥取西高野球部員や中ノ郷中テニス部員たちも加わり、きねを振り上げるたびに大きなかけ声も飛び、にぎやかだった。

台の上で丸めた餅は公民館できな粉餅にし、白餅は参加者にプレゼント。手伝った中学生は「つきたてでおいしい」と笑顔を見せ、

中ノ郷小4年の宮崎紗羽さんは「初めて餅つきをして楽しかった」。同市北園2丁目の山口恵子さんは「子どもと一緒に、よい体験になった。私は小学生の時に来です」と喜んだ。

公民館職員は「コロナ禍で4年ぶりの餅つき。子どもたちには、成人してもかゝるさとの体験を思い出してもらいたい」と話した。

(鳥取城西通信部・米谷新太郎通信員)